

神様は死んだと君が泣いたなら照らしてあげよう君に光あれ

花の名は短命なんだと笑ったがほんとに君は僕を置いてった

僕はもう風船よりも軽いからね風に乗って君を見守ろう

魂の重さは2グラム いちご一粒と大体同じ

蝶のように舞い蜂のように刺してくれ君の毒は程よく甘いから

恋はたぶん叶わないほうがずっといい叶った途端脳が冒される

以下、解説

【神様は】

神は死んだと世界が言うのなら、私が君の神様にでもなんにでもなってやる。光だってもたらしてやる。

【花の名は】

自虐的に笑う君の顔が脳裏に焼き付いている。花みたいな人だった。最期は華麗に散っていった。

【僕はもう】

身体を失ったことで軽くなったし、自由になった。生まれ変わるまで時間があるらしいし、君のこと見てようかな。

【魂の】

魂には重さがあるらしい。調べたらいちごと同じくらいだった。あの子の重さを手のひらで感じてみる。

【蝶のように】

君はすごくきれいで美しいけど、毒みたいな人だとつくづく思う。そこがいいんだけど。

【恋はたぶん】

恋ほど身体を、人生を、すべてを壊すものはないかもしれない。恋の神様はきつと破壊神かなにかじゃないだろうか。